



バイオコミュニティ関西 (BiocK)

～「集積」から「連携」へ～

2025年7月

事務局 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議
公益財団法人都市活力研究所



内閣府バイオエコノミー戦略の概要

- バイオテクノロジーやバイオマスを活用するバイオエコノミーは、環境・食料・健康等の諸課題の解決、サーキュラーエコノミーと持続可能な経済成長の実現を可能にするものとして、投資やルール形成等、グローバルな政策・市場競争が加速。
- 我が国においても、GXやサーキュラーエコノミー、経済安全保障、食料安全保障、創薬力強化等の議論が進展する中で、バイオものづくりをはじめとした総額1兆円規模の大型予算が措置されるなどバイオエコノミーに対する期待が高まっている。
- **バイオエコノミー戦略※**に基づく取組を推進し、**我が国の強みを活用してバイオエコノミー市場を拡大し、諸課題の解決と持続可能な経済成長の両立につなげていく。**（※バイオ戦略（2019年策定、最終更新2021.6）を改定し、名称も変更）

バイオエコノミー市場拡大を目指した取組の推進 2030年に国内外で100兆円規模

	バイオものづくり・バイオ由来製品	一次生産等（農林水産業）	バイオ医薬品・再生医療等、ヘルスケア
目指す姿	各産業の バイオプロセス転換の推進、未利用資源の活用による環境負荷低減やサプライチェーンの強靱性向上	持続可能な食料供給産業の活性化、木材活用大型建築の普及によるCO ₂ 排出削減・花粉症対策への貢献	日本発の バイオ医薬品等のグローバル展開、医療とヘルスケア産業が連携した健康寿命延伸
技術開発	・バイオテクノロジーとAI等デジタルの融合による微生物・細胞設計プラットフォームの育成とバイオファウンドリ基盤の整備 ・強みとなりうる水素酸化細菌、培養・発酵プロセス等に注力 ・原料制約の解消に向けた未利用バイオマスやCO₂直接利用、生産・収集コストの低減、前処理技術等	・スマート農業に適合した品種の開発・栽培体系の転換、農業者を支援する生成AIの開発等、ゲノム情報を活用した新品種の開発等生産力向上と持続性を両立する研究開発等 ・建築用木材(CLT等)や林業機械の技術開発・実証、ゲノム編集による無花粉スギの開発等	・次世代の医療技術や創薬につながる革新的シーズ創出のための基礎研究と橋渡し機能の強化 ・革新的医薬品・医療機器等の開発を進めるための薬価制度等におけるイノベーションの適切な評価を検討
市場環境	・バイオ由来製品の市場化に向け、まずは高付加価値品の市場化に注力。低コスト化・量産等に向けた規制や市場のあり方の検討、段階的に汎用品の市場化。官民投資規模を3兆円/年に拡大 ・LCA等の評価や製品表示、国際標準化等のルール形成、グリーン購入法等を参考にした需要喚起策の検討	・みどりの食料システム戦略に基づく環境負荷低減に向けた取組等の推進 ・フードテック等先端技術に対する国民理解の促進等。先進技術の海外市場への展開、国際標準等 ・木材利用の意義や効果の普及啓発	・ヘルスケアサービスの信頼性確保のため、医学界・産業界が連携したオーソライズの仕組みの構築を支援 ・安全保障上の観点も含め、CDMO等製造拠点の国内整備及び現場での製造人材の確保
事業環境	・バイオファウンドリ拠点の整備 ・バリューチェーンで求められる人材の育成・確保、周辺産業も含めたサプライチェーンの構築 ・省庁連携による規制・ルールの調整、国際議論への対応、バイオマス活用推進基本計画に基づいたバイオマスの活用推進	・農研機構等において産学官が共同で活用できるインフラの充実・強化。品種の海外流出防止に向けた育成者権管理機関の取組の推進 ・大規模技術実証事業等による農林水産・食品分野のスタートアップの育成 ・木材活用大型建築の設計者・施工者の育成	・日本と諸外国のエコシステムの接続の強化による創薬ベンチャー支援 ・ヘルスケア産業市場の特異性を踏まえたスタートアップ支援

基盤的施策

- ・若手研究者について**研究に専念できる環境整備、競争的研究費の充実**
- ・**バイオとデジタルの融合、研究のDX**を一層加速するための**データベースの整備**や**AIを用いた統合検索技術**等の開発、**バイオインフォマティクス人材**の育成
- ・分野ごとや分野横断的な**データの連携・利活用**を支える基盤の整備
- ・生命の発生・再生から老化までの「**ライフコース**」に着目した研究等の**基礎研究の推進**。**AIや量子**などの異分野の知見の活用の推進
- ・**バイオリソース**の収集・維持・提供の確実な実施と、中核拠点の充実
- ・人材・投資を呼び込み、市場に製品・サービスの供給に向けた**バイオコミュニティ、スタートアップエコシステム拠点都市**等の**産学官金**が連携した取組の推進

バイオエコノミー戦略の全体構造

- 環境・食料・健康等の諸課題の解決
- サーキュラーエコノミーと持続可能な経済成長の実現



バイオエコノミー市場の拡大を通じて貢献

バイオエコノミー市場の拡大（バイオテクノロジーやバイオマスを活用）2030年に向けた科学技術・イノベーション政策の方向

2030年に国内外で100兆円規模の市場規模を目指す

① バイオものづくり・バイオ由来製品

② 持続的・一次生産システム
③ 木材活用大型建築・スマート林業

④ バイオ医薬品・再生医療・細胞治療・遺伝子治療関連産業
⑤ 生活習慣改善ヘルスケア、デジタルヘルス

ターゲット市場ごとに2030年に目指す姿を定め、バックキャストで技術開発、市場環境、事業環境の整備等の取組

バイオエコノミーの基盤となる基礎生命科学等の研究力の強化、バイオコミュニティの活動の推進等の基盤的な取組



関西の地域特性、強みと課題

関西の強みと課題

バイオ関連産業の集積

- ✓ 歴史的に、医薬品、医療機器、醗酵などのバイオ産業が集積している
- ✓ 東部大阪を中心に、高度な技術を持つものづくり中小企業が集積している
- ✓ バイオ関連のCMO（受託製造）やCDMO（受託開発製造）事業が近年積極的に拡大されている

研究拠点と知の集積

- ✓ 高度な研究機関や質の高い研究者が集積している
- ✓ 再生医療や免疫の分野で質の高い研究開発活動を推進している
- ✓ スーパーコンピュータ「富岳」など、先端分野の研究開発をリードしている
- ✓ 研究開発型の民間企業が多く存在する
- ✓ 幅広い分野の多様なクラスターが発達しておりコンパクトに集積している
- ✓ 海外との共同研究や研究交流が活発に行われている

地域の魅力

- ✓ 大阪・京都・神戸は魅力的な都市として国際的な認知度が高い
- ✓ 関西国際空港は関西の玄関口であり、海外、特にアジアとのつながりが強い
- ✓ オフィス賃料や工業団地借料なども比較的安価であり優れたコスト競争力を有する

将来への期待

- ✓ 研究開発型産業振興のための大型プロジェクトが多く推進されている
- ✓ スタートアップ企業輩出の素地があり期待されている
- ✓ 大阪・関西万博2025が予定されており、未来志向が醸成されつつある

課題

- ✓ ベンチャー化のマインド、CXO人材、資金の不足
- ✓ スタートアップの認知度が低い
- ✓ 関西としてのまとまりがない

集積から連携へ



バイオ関連産業の集積

研究拠点と知の集積

地域の魅力

京都大学
京都大学iPS細胞研究所(CiRA)
京都大学iPS細胞研究財団 (CiRA_F)
理化学研究所(けいはんな)
地球環境産業技術研究機構 (RITE)
京都リサーチパーク(KRP)

大阪大学
大阪公立大学
医薬基盤・健康・栄養研究所
国立循環器病研究センター
産業技術総合研究所(関西センター)
理化学研究所(吹田)
彩都、健都、中之島
関西医薬品協会、道修町
近畿バイオインダストリー振興会議
都市活力研究所、LINK-J WEST

神戸大学
理化学研究所(神戸)
神戸医療産業都市(KBIC)/スーパーコンピュータ「富岳」
先端バイオ工学推進機構(OEB)
次世代バイオ医薬品製造技術研究組合(MAB)
バイオロジクス研究・トレーニングセンター(BCRET)
播磨科学公園都市/大型放射光施設「SPring-8」

連携・連鎖の加速

連携

支援

集積

幅広い市場領域において
バイオエコノミー社会を実現

BiocKの取組みにより
連携・連鎖をさらに加速させる

KSAC*、KSII**などの取組みにより
大学や研究機関の連携が進みつつある

* 京阪神スタートアップアカデミア・コアリション/文科省
** 関西イノベーションイニシアティブ/経産省

大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム*の
取組みによりスタートアップ支援が始まっている

* スタートアップ・エコシステム拠点都市/内閣府



バイオコミュニティ関西について

バイオコミュニティ関西について

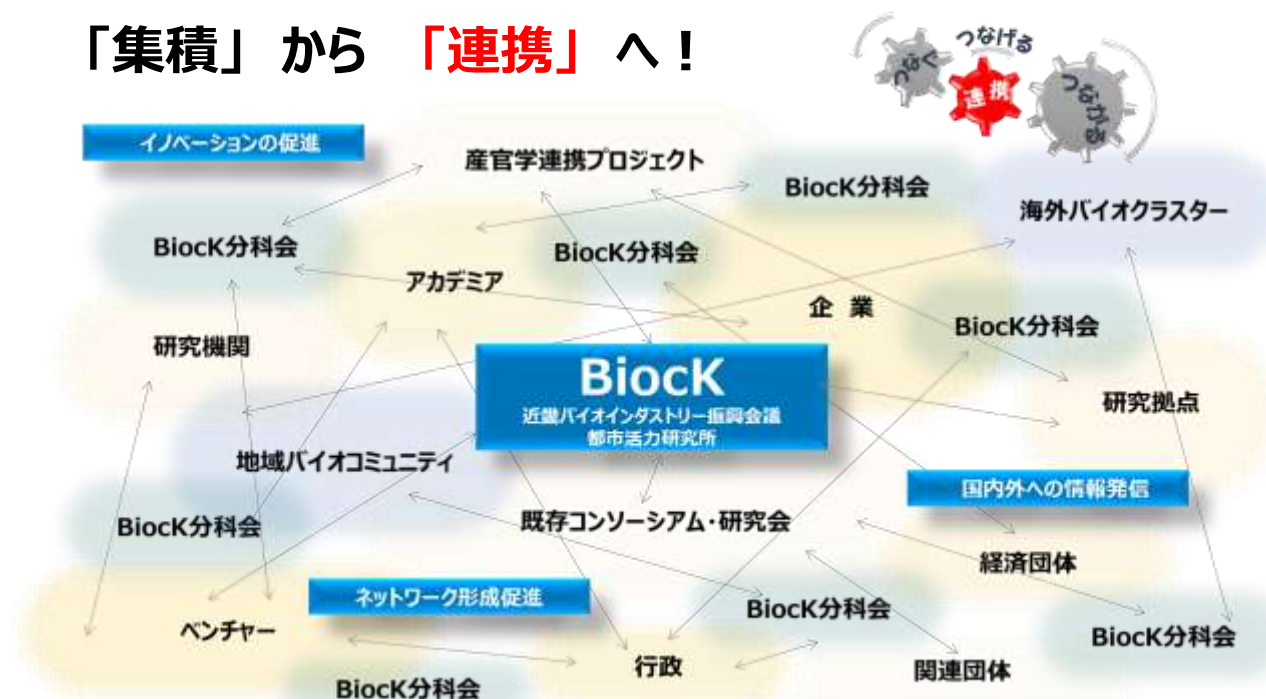


ビジョン	持続可能な社会実現のため、バイオファーストの発想を広げ、グローバルバイオコミュニティの形成をめざす
ゴール	関西を拠点にバイオ分野における究極のエコシステムをつくる
キーワード	「集積」から「連携」へ つなぐ、つなげる、つながる

「連携」が意味すること

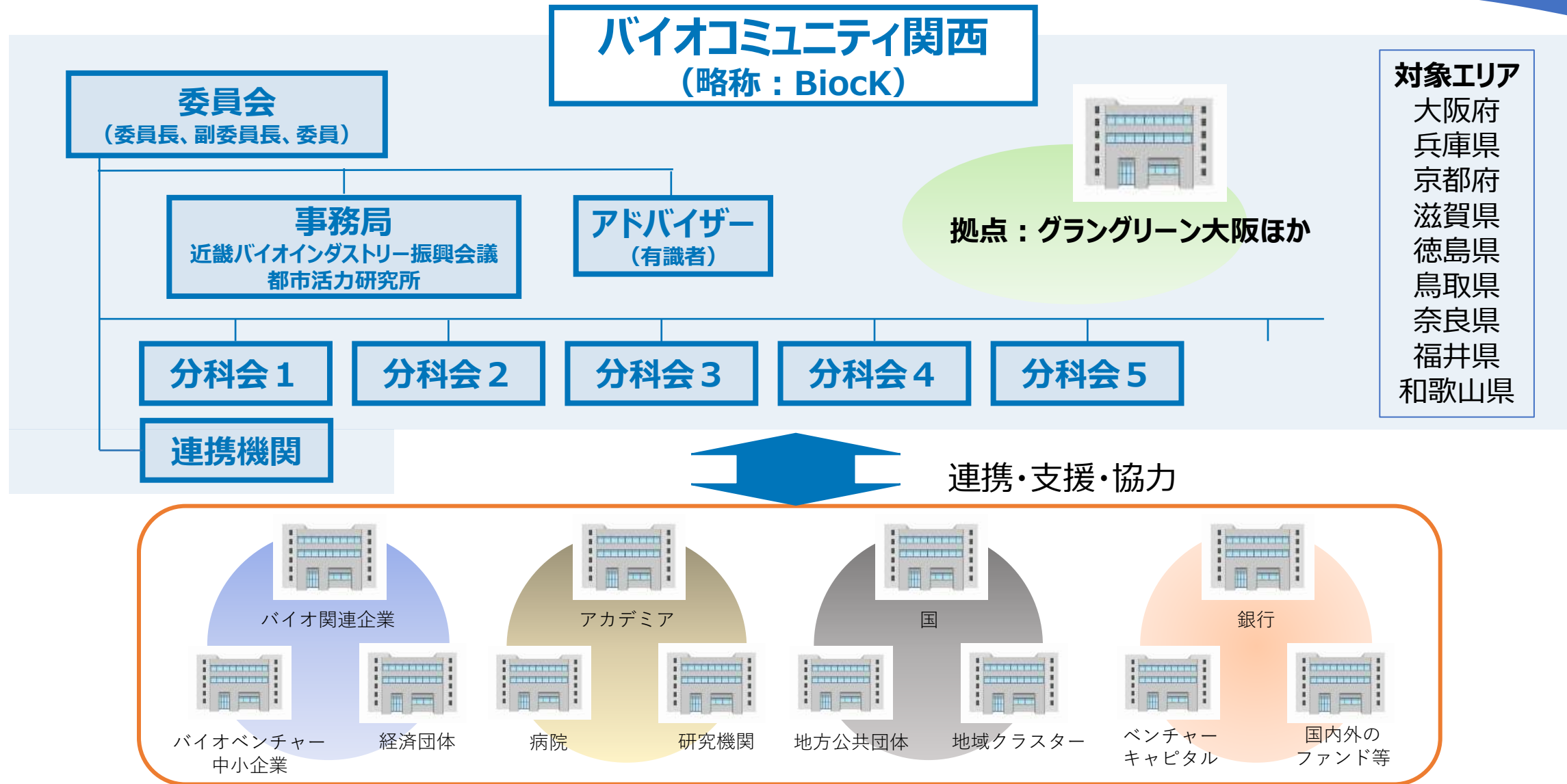
ネットワーク機関が中心となって、コミュニティ内の人と情報の交流を促進することにより、各機関がお互いの状況を深く理解し、適切な情報共有が進む状態をつくり出し、必要なパートナーと協力し、人・モノ・金・情報の好循環が進み、経済的な成長を達成するとともに、グローバルな存在感を増している状態

「集積」から「連携」へ！



名称	✓ バイオコミュニティ関西 ✓ Biocommunity Kansai ✓ 略称 BiocK (バイオック)
設立・認定	✓ 2021年7月1日設立 ✓ 2022年4月22日 内閣府よりグローバルバイオコミュニティに認定
アクションプラン	✓ イノベーションの促進 ✓ ネットワーク形成促進 ✓ 国内外への情報発信
コミュニティのあり方	✓ 「産業界」中心のコミュニティとする ✓ バイオ界全体の連携を強化する ✓ 新たなイノベーションにつなげる

バイオコミュニティ関西の組織



バイオコミュニティ関西 委員構成

2025年7月10日現在



役員	委員長	澤田 拓子	関西経済連合会ベンチャー・エコシステム委員会 委員長			
	副委員長	諸富 隆一	関西経済連合会ベンチャー・エコシステム委員会 副委員長 関西経済同友会関西ブリッジフォーラム委員会 委員長			
	副委員長 統括コーディネーター	坂田 恒昭	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 理事長 大阪商工会議所ライフサイエンス振興委員会 副委員長 全国バイオコミュニティ連絡会 会長			
	事務局長	村山 宣人	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 専務理事			
	事務局次長	森田 正典	公益財団法人都市活力研究所 専務理事			
	委員	関西経済連合会 関西経済同友会	大阪商工会議所 京都商工会議所 神戸商工会議所	大阪大学 京都大学 神戸大学 徳島大学 大阪公立大学	大阪府 兵庫県 京都府 滋賀県 福井県	大阪市 神戸市 京都市 徳島県 和歌山県
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立研究開発法人国立循環器病研究センター 国立研究開発法人産業技術総合研究所関西センター 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 国立研究開発法人理化学研究所 独立行政法人製品評価技術基盤機構 公益財団法人地球環境産業技術研究機構 株式会社国際電気通信基礎技術研究所 関西健康・医療創生会議			関西医薬品協会 日本貿易振興機構大阪本部 独立行政法人中小企業基盤整備機構近畿本部 一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン 一般財団法人バイオインダストリー協会			
					37団体	
事務局		NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議	公益財団法人都市活力研究所			

アクションプラン

(1) イノベーションの促進

社会課題解決のためのオープンイノベーションを推進する責任あるコンソーシアム(分科会)を組成し、1企業、1研究機関では 解決できないテーマを取り上げて挑戦する

- ① **企業発オープンイノベーションの促進**
 - ✓ 関西企業を中心にテーマを募集し、中核企業が経営層のコミットメントを得て責任あるリーダーとなる
 - ✓ リーダー企業が中心となって関西にとどまらず国内外の関連機関を巻き込んで分科会を組成し、運営する
- ② **産学官連携プロジェクトとの連携**
 - ✓ 国や地方自治体が推進している産学官連携プロジェクトと連携し、必要に応じて分科会に位置づける
 - ✓ 他の分科会との連携を図るなど、BiocKのネットワークを活用して全体としての成果の向上をめざす

全ての活動のベースとなる以下の課題については特に注力し、分科会を立ち上げて取り組む

カテゴリ	課 題	取組みの方向性
スタートアップ支援	ベンチャー化のマインド、人材、資金が不足 海外からの認知度が低い 特に開発後期を担うベンチャー数が極端に少ない	▶ CXO人材の育成(事業計画策定、知財確保など) シリーズB以降の資金調達 大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム、KSAC、KSIIと協力 既存の枠組みにとられない資金提供の仕組の提案
人材確保	スタートアップの経営を担う CXO人材の不足 バイオ製造にかかわる人材の不足	▶ 人材交流によるCXO人材発掘プログラムの立ち上げ 起業家マインド育成のための高校生へのアプローチ バイオ製造人材育成プロジェクトとの連携
バイオフアウンドリ	バイオ製造技術の確立には、技術開発と先行投資が必要 バリューチェーンを構築できれば大きな強みとなる	▶ バイオ製造技術、細胞製造技術に関するプロジェクト強化 CDMO、CMO、事業会社のバイオ製造拠点の利活用
データ連携と利活用	バイオ関連データの収集・統合・利用のルール作り 持続的に運用可能なシステムの構築	▶ 関西発のデータ連携システム構築 Society 5.0の実現

分科会構成

企業発オープンイノベーションの促進（16件）

2025年7月1日現在



分科会名称	社会課題分野	取組内容	リーダー機関	備考
バイオメタン分科会	環境・エネルギー	エネルギーのカーボンニュートラル化	大阪ガス株式会社	産官学から多くの研究機関が参画予定
プラスチック分科会	環境・エネルギー	バイオプラスチック	サラヤ株式会社	
メンタルヘルス分科会	ヘルスケア	社会生産性の向上	塩野義製薬株式会社	
パーソナルデータ分科会	ヘルスケア	パーソナルデータの利活用	西日本電信電話株式会社	
麹菌（国菌）ウェルビーイング分科会	生活習慣改善ヘルスケア	麹菌の健康効果、美容効果の解明	月桂冠株式会社	
ライフスタイルDX分科会	デジタルヘルスケア	デジタルを活用したライフスタイルのアップデート	サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社	
トイレ空間での新たな価値提案分科会	ヘルスケア	トイレを利用した健康な暮らしのサポート	TOTO株式会社	
お茶とフレイル研究分科会	ヘルスケア	お茶によるフレイルの予防、改善	共栄製茶株式会社	
スマートカルチャーセッション分科会	持続的・一次生産システム	一次産業におけるバイオ機能の最大限活用	ヤンマーホールディングス株式会社	
木材・CLT利活用DX分科会	木材活用大型建築	Building Information Modeling(BIM)データ活用によるCLT再利用	株式会社竹中工務店	
KODOBOKU技術を活用した森林環境分科会	森林環境保全	豊かな生物多様性の森づくり	株式会社シーテック	
バイオファウンドリ・クラスター分科会	モノづくりバリューチェーン	バイオモノづくり	株式会社バッカス・バイオイノベーション	
分析・計測分科会	バイオ分野全般	分析・計測によるバイオ産業の振興	株式会社島津製作所	
宇宙バイオ実験分科会	バイオ全般	人工衛星ペイロードを利用した日本発民間主導宇宙バイオ実験プラットフォームの構築	株式会社IDDK	
音でバイオの世界をかえる分科会	バイオ生産システム・ヘルスケア	バイオ生産、ヘルスケア領域への音の利用	オンキヨー株式会社	
スタートアップ分科会	スタートアップ支援	関西におけるスタートアップ支援	株式会社三井住友銀行	
新たな分科会の中核機能を担う「企業」・「産学官連携プロジェクト」募集中				

分科会構成

産官学連携プロジェクトとの連携（15件）

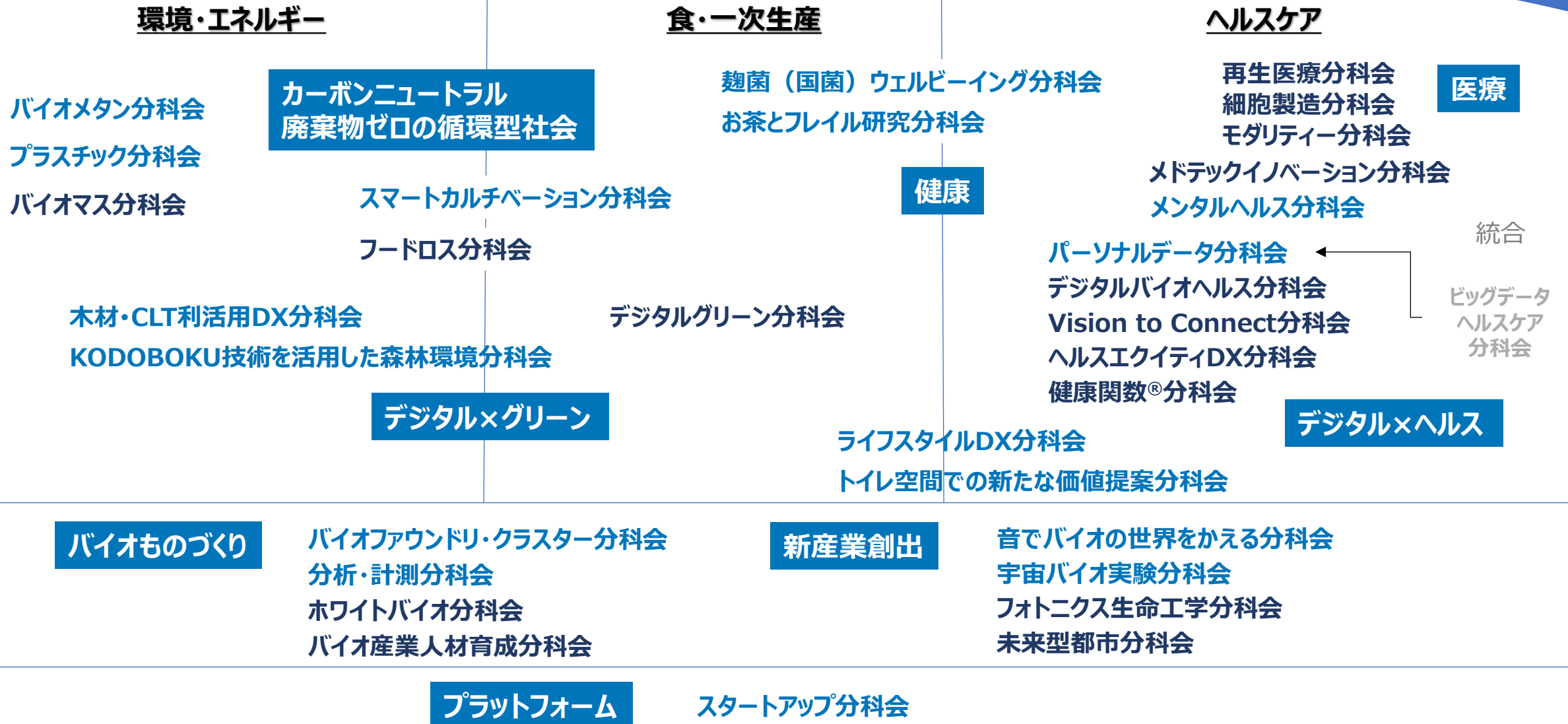
2025年7月1日現在



分科会名称	社会課題分野	取組内容	リーダー機関	備考	産官学から多くの研究機関が参画予定
デジタルバイオヘルス分科会	ヘルスケア	総合健康産業都市	国立循環器病研究センター研究所	JST共創の場	
フォトニクス生命工学分科会	ヘルスケア	フォトニクス生命工学	大阪大学	JST共創の場	
Vision to Connect分科会	ヘルスケア	眼科を中心としたデジタルヘルスビックデータによる幸福なライフスタイルの社会実装	東北大学	JST共創の場	
モダリティー分科会	ヘルスケア	抗体・遺伝子治療製品・ワクチン製造	次世代バイオ医薬品製造技術研究組合(MAB組合)	AMED・NEDO	
メドテックイノベーション分科会	ヘルスケア	医療機器開発人材育成	大阪大学/テルモ株式会社		
ヘルスエクイティDX分科会	ヘルスケア	ケアラーのケアシステム構築	自治医科大学/アルム株式会社		
細胞製造分科会	再生医療	細胞製造エコシステムの構築	大阪大学	AMED	
再生医療分科会	再生医療	再生医療エコシステムの構築とグローバル化	大阪大学		
健康関数®分科会	健康脆弱化の予知・予防・改善	個別健康の最大化により健康寿命を延伸する	神戸大学、理化学研究所		
フードロス分科会	持続的・一次生産システム	革新的低フードロス共創拠点	大阪大学		
デジタルグリーン分科会	持続的・一次生産システム/ デジタルヘルス/バイオ生産	けいはんな学研都市と近郊農山村が相互補完する持続可能社会の実現	奈良先端科学技術大学院大学		
バイオマス分科会	カーボンニュートラル	バイオマス技術によるカーボンゼロエミッションの実現	東京農工大学	JST共創の場	
ホワイトバイオ分科会	ホワイトバイオ関連	バイオファウンドリ事業	大阪大学(代表世話人)	NEDO	
バイオ産業人材育成分科会	バイオ生産システム人材育成	バイオものづくりの実務を担うバイオ産業人材育成	大阪工業大学	NEDO	
未来型都市分科会	持続可能社会	未来型知的インフラモデル発信	大阪大学	JST共創の場	
新たな分科会の中核機能を担う「企業」・「産学官連携プロジェクト」募集中					

分科会マッピング

薄青：企業発オープンイノベーション分科会
濃青：産官学連携プロジェクトとの連携分科会



第4回分科会会議

2024年8月29日（木）

講師1名、分科会30名、オブザーバー12名、
BiocK 11名

1. 開会挨拶（澤田委員長）
2. 新分科会活動紹介
3. 国際シンポジウムの情報共有と参加依頼
4. ご講演

「オープンイノベーションの成功に向けて」
株式会社ちとせ研究所
代表取締役
最高経営責任者
藤田 朋宏 様



5. アンケート結果に基づく意見交換
（モデレーター：
坂田副委員長兼統括コーディネーター）
6. 閉会挨拶（諸富副委員長）

第5回分科会会議

2025年8月28日（木）（予定）

オープンイノベーションの成功に向けて

BiocKによるこれまでの分科会活動支援

- ① イベント協力（共催、後援、挨拶、講演、広報など）
- ② パートナー紹介
- ③ 公費獲得への助言

第4回分科会会議

◆ BiocKに期待することについて、
アンケート結果に基づく意見交換



分科会からBiocKへの期待

- ① パートナー集め
- ② 情報発信
- ③ 公費獲得支援

具体的な成果創出に向け、支援活動を強化中！

支援活動の進め方：

分科会のニーズを整理し、ニーズに応じて

- ① パートナー探し
 - ✓ BiocKネットワークを活用した紹介
 - ✓ スタートアップとのマッチング強化
 - ✓ セミナー・交流会でのパートナー探し支援
- ② 情報発信支援
 - ✓ HP・メルマガ等で活動広報
 - ✓ セミナー・シンポジウムでの発信
- ③ 公的資金獲得支援
 - ✓ 公募情報の提供
 - ✓ 実態把握に基づく資金調達提案

目標達成へ！

分科会主催イベント等

多くの分科会が活発に活動中！

スタートアップ分科会

スペシャルトライアル

- 第1回 2024年5月17日（金）
- 第2回 2024年7月19日（金）
- 第3回 2024年9月20日（金）
- 第4回 2024年11月15日（金）
- 第5回 2025年1月17日（金）
- 第6回 2025年3月21日（金）



デジタルバイオヘルス分科会

パーソナルデータ分科会

メンタルヘルス分科会

2024年11月18日（月）

BiocK分科会とJBAヘルスケア研究会が「健康データプラットフォーム」をテーマに交流会を開催



ライフスタイルDX分科会

2024年6月

腸活サポートアプリ「腸note」から、iPhone版に続きAndroid版リリース

分析・計測分科会

2024年7月19日（金）

バイオコミュニティ関西「分析・計測分科会」シンポジウム
～バイオ産業の未来を支える分析・計測技術～

プラスチック分科会

2024年10月5日（土）

プラスチックセミナー

デジタルバイオヘルス分科会

2024年12月5日（木）

JST共創の場形成支援プログラム
政策重点分野バイオ拠点合同シンポジウム
「共に創る未来の健康社会～つくばと国循の挑戦」

デジタルバイオヘルス分科会

2025年1月

JST共創の場・国循拠点のパフレットが完成

宇宙バイオ実験分科会

2025年2月21日（金）

BiocK宇宙バイオ実験分科会公開イベント
成長産業育成コンソーシアム推進事業ネットワーク交流会
「宇宙 x ライフサイエンス in 神戸 vol. 2
～モデル生物を用いた宇宙につながる医学研究～」

オープンイノベーションの成功に向けて

社会課題とテーマ	民間中心	取り組み方	人材
- 地球規模の社会課題をどうとらえるか - バイオでどう解決するか - 実用化が可能なテーマ設定	- 社会実装のためには民間の力が必要 - 企業トップのコミットが必須	- 市民や若手などを巻き込んだワークショップの開催も効果的 - 先進的な取り組みは、小規模でまずやってみる	- オープンイノベーション人材の発掘 インタープレナー（社会起点で越境しながら働く人） - ビジネス展開は技術部門だけでは困難 - バイオ人材育成も必要
学との連携	オープンイノベーションのコア		スタートアップの役割
- アカデミアのシーズを企業またはベンチャーが実用化する - シーズの目利きが必要 - 社会課題解決のためにアカデミアが企業に協力するという考え方も重要	コンセプト	コミュニケーション	イノベーション推進の主役 アカデミアと企業の橋渡しにもなる - フラッグとなるベンチャーをつくる - 最終的なプロダクトを作れる会社 - CXO人材育成 - アントレプレナー教育は座学＋実学で - スタートアップへの投資促進
	<u>何をするのか</u> - 真の社会課題への取り組み 1社ではできない課題 - イノベーションのデザイン	<u>周囲の力を利用する</u> - 専門家をまとめあげる - 人間力、情報力、表現力、現場力、直観力	
官との連携	さらなる連携	データ利活用	関西の特長
- 国費の獲得 - スマートシティ、資源循環、エネルギーなどの分野では自治体との連携が重要	- デジタル、AIの取り込み - 異なるステークホルダーとの掛け算 - 異業種間連携 海外連携	- ヘルスケア分野のデータ利活用は必須 - 農業や環境分野でもデータの利活用は重要	- 顔が見えるコミュニティがある フランクな議論ができる - イノベーション創発に適している - 議論の場（サロン）の活性化が必要

アクションプラン (2) ネットワーク形成促進



国内連携

認定BC連携、京阪神自治体間連携に大きな成果！

◆京阪神連携会議

2024年5月16日（木） 大阪
2024年7月12日（金） 神戸
2024年12月18日（水） 京都
2025年2月12日（水） 大阪
2025年3月7日（月） 神戸
参加メンバー：BiocK、大阪府、京都市、神戸市
議題：BH Japan 2025、スタートアップ支援活動等

◆第3回認定バイオコミュニティ連携会議

2024年10月31日（木）～11月1日（金）
開催地：北海道
参加メンバー：認定BC、内閣府
議題：内閣府の支援について
BH Japan 2025について（BiocK）
GTBからの情報提供

◆2024年度全国バイオコミュニティ連絡会

2025年1月20日（月） JBA主催
参加メンバー：全国BC、内閣府、政府機関
議題：スタートアップエコシステム形成について
・各BCのトピックス紹介
・内閣府の取組について
・各実施機関からの情報提供

京阪神連携の成果

1. Bio-International(ボストン)で京阪神連携

- ・神戸市が開催する iPark-KBIC Meetup@Boston 2025 にBiocK、大阪府、京都市が協力
- ・大阪府と神戸市が共同出展

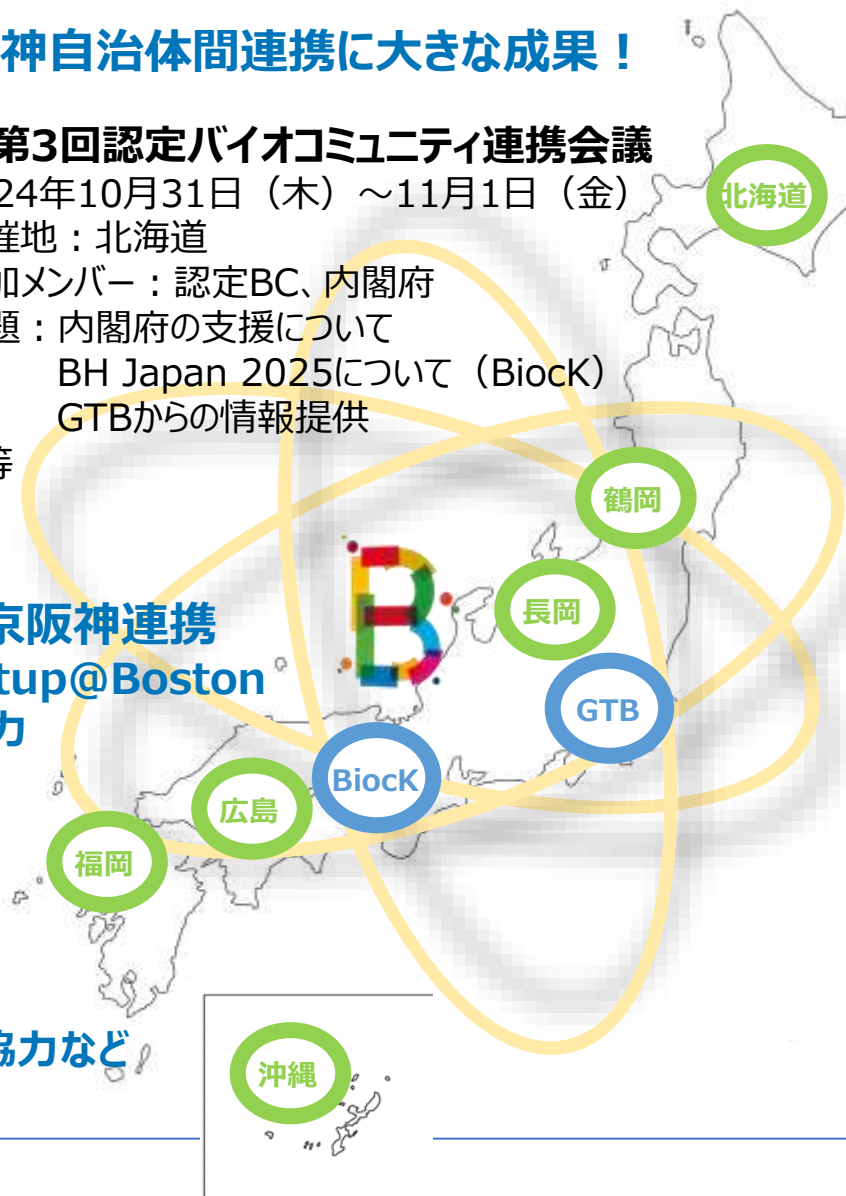
2. BH Japan 2025への協力

- ・内容に関する意見交換、参加協力
- ・大阪府エクスカージョンの実施

3. 各自治体の事業に相互協力

- ・スタートアップ、アカデミアの紹介、広報協力など

4. コミュニケーションが劇的に増加



◆関西バイオビジネスマッチング2024

2025年1月～2月（オンライン）
出展社数：122社 ピッチ発表：46件
参加者数：214人 マッチングサポート：35件
商談数：157件

◆BiocK 連携機関

国内67団体（2025年7月1日現在）

◆セミナー等への共催・協力・後援

年間 約100件

アクションプラン (2) ネットワーク形成促進



海外連携

各国との交流が飛躍的に拡大 (2023~2025を記載)

◆日英ヘルスケアシンポジウム
– Healthy Ageing –
共催 2024年2月20日

◆日英ヘルスケアシンポジウム
– Cell and Gene Therapy –
“Manufacturing in the UK”
共催 2025年2月25日

◆海外調査-2
2023年10月29日~11月9日
オランダ、イギリス
デジタルバイオヘルス分科会 (国循)
JST共創の場プログラム

◆海外調査-3
2024年1月13日~21日
スペイン、フランス
デジタルバイオヘルス分科会 (国循)
JST共創の場プログラム

◆海外調査-5
2024年10月24日~11月3日
フランス、スイス、デンマーク
デジタルバイオヘルス分科会 (国循)
フォトニクス生命工学分科会 (阪大)
JST共創の場プログラム

◆日蘭シンポジウム – 再生医療 –
共催 パート1 2023年4月14日
パート2 2023年5月19日

◆日蘭再生医療シンポジウム2025
共催 2025年6月25日

◆フランクフルト・ラインマインセミナー
共催 2023年11月14日

◆海外調査-1
2023年5月28日~6月3日
オセアニア
デジタルバイオヘルス分科会 (国循)
JST共創の場プログラム

◆BH Japan 2025開催
2025年4月17日、18日
参加者: 339名 国内290名、
海外25カ国、49名が参加

◆海外調査-6
2025年1月12~25日
米国 (ワシントン、サンフランシスコ)
デジタルバイオヘルス分科会 (国循)
フォトニクス生命工学分科会 (阪大)
JST共創の場プログラム

◆海外調査-7
2025年6月14~19日
米国 (ボストン)
デジタルバイオヘルス分科会
(国循)
JST共創の場プログラム

◆海外調査-4
2024年6月2日~9日
米国 (サンディエゴ)
デジタルバイオヘルス分科会 (国循)
フォトニクス生命工学分科会 (阪大)
JST共創の場プログラム

◆BiocK 連携機関

海外42団体
(2025年7月1日現在)

- 交流拠点
- 連携機関

アクションプラン (2) ネットワーク形成促進

アドバイザー

各分野の専門家にアドバイザーにご就任いただき、助言を受ける体制を構築

36名
(2025年7月1日現在)

井垣 太介 弁護士法人西村あさひ法律事務所 弁護士/NY州弁護士
池野 文昭 MedVenture Partners株式会社 取締役 CMO
石川 大輔 弁護士法人山本特許法律事務所 弁理士
出馬 弘昭 東北電力株式会社 アドバイザー
栄木 憲和 エイキ コンサルティング合同会社 社長
エドワード ウィレムス Gold Nest Capital 共同創設者兼 CEO
小川 聡 TMI総合法律事務所京都オフィス パートナー弁護士
春日 文子 長崎大学 プラネタリーヘルス学環
熱帯医学・グローバルヘルス研究科 教授
北地 達明 公認会計士
駒谷 剛志 高島国際特許事務所 弁理士
小柳 智義 京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構
(iACT) ビジネスディベロップメント室 室長 特定教授
近藤 昭彦 神戸大学 教授
佐相 宏尚 ケンブリッジコンサルタンツ株式会社 代表取締役社長
ジョー パネッタ バイオコム・カリフォルニア 社長兼CEO
角田 皓一 角田 皓一会計事務所 代表 税理士・中小企業診断士
ゼイン ラナ ロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社ヘルスケアコンサルタント
竹之下 泰志 Senya Therapeutics CEO
千葉 一裕 東京農工大学 学長
堂田 丈明 Google LLC ベンチャーキャピタル事業開発統括
殿井 裕之 殿井公認会計士事務所 所長

永田 智也 D3LLC | D3バイオヘルスケアファンド マネージング・パートナー
中森 亘 弁護士法人北浜法律事務所 代表社員・パートナー 弁護士
花輪 正明 塩野義製薬株式会社 医薬開発本部 薬事部 部長
林 公子 カリフォルニア大学サンディエゴ校 医学部 リウマチ科
藤田 二郎 Biocom Japan Consulting Managing Director
前田 千尋 バーンズ&ソーンバーグ法律事務所 弁護士
松井 拓也 ケンブリッジコンサルタンツ株式会社
メディカルテクノロジー事業部 事業開発部長
味方 和樹 新エネルギー・産業技術総合開発機構
イノベーション戦略センター バイオエコノミーユニット ユニット長
宮川 潤 CoEvolution合同会社 代表
宮松 寛有 オックスフォード・ユニバーシティ・イノベーション
日本代表 アソシエイト・コンサルタント
山本 健策 弁護士法人山本特許法律事務所 弁護士/弁理士
山本 真理 バーンズ&ソーンバーグ法律事務所 コーポレート部門パートナー
日系企業サービスグループ代表
湯本 史明 Renzoku Biologics株式会社 共同創業者/COO
吉澤 尚 グリットパートナーズ法律事務所 弁護士
和賀 三和子 カリフォルニア大学サンディエゴ校 国際イノベーションアウトリーチ
シニアディレクター
渡辺 知保 長崎大学 プラネタリーヘルス学環
熱帯医学・グローバルヘルス研究科 教授

アクションプラン (3) 国内外への情報発信

関西バイオ情報の発信

- ✓ 関西の活動・ポテンシャルの情報発信
- ✓ 市民を巻き込んだ情報発信
- ✓ 経済安全保障に関する情報発信

関西ブランドの構築

- ✓ 大阪・京都・神戸の認知度は高いが、関西の認知度は低い
- ✓ バイオ情報を関西全体として発信することにより、関西ブランドの価値向上、認知度向上につなげる

大阪・関西万博2025

- ✓ 世界にアピールする大きなチャンスであり、BiocKとして実証実験に参画する
- ✓ これを契機として、社会実装を実現していく



ロゴ、WEBサイト、紹介資料、動画、セミナー、シンポジウム、個別面談、他

BiocK WEBサイトで情報発信中！

BiocK



<https://biock.jp/>

- イベント情報
- 分科会活動
- 連携機関



アクションプラン (3) 国内外への情報発信



BiocK活動紹介

講演、取材、雑誌投稿等による情報発信

BioJapanで登壇

2024年10月9～11日

認定バイオコミュニティ活動報告会

登壇 坂田副委員長兼統括コーディネーター

「バイオコミュニティ関西活動紹介」

関西広域連合セミナー

登壇 高田事務局長

「Bioeconomy Hub Japan 2025」



日経バイオテクに掲載

2024年9月26日

坂田副委員長兼

統括コーディネーター

「バイオコミュニティ関西、大阪・関西万博で
「プラネタリーヘルス」の国際シンポ開催へ」



JBA機関紙に投稿

2024年7月

投稿 高田事務局長

「バイオコミュニティ関西（BiocK）集積から
連携へ」

関西バイオものづくりフォーラム2025

2025年3月5日（水）

主催：近畿経済産業局

BiocK：後援、坂田副委員長挨拶、高田事務局長パネル登壇、ポスター発表



BiocKホームページを活用した情報発信

バイオのポータルサイトとして多くの団体が活用

分科会紹介ページの運用

アドバイザー紹介ページの運用

関連団体イベントの情報発信

HP掲載、メルマガ配信：年間約120件

BiocKおよび各団体からのお知らせ

HP掲載、メルマガ配信：年間約50件

アクションプラン (3) 国内外への情報発信



Bioeconomy Hub Japan

認定BCが一体となり、海外に向けてイニシアチブを発揮

Bioeconomy Hub Japan 2024

日時：2024年4月19日（金）

場所：グランフロント大阪

主催：Bioeconomy Hub Japan 組織委員会

テーマ：プラネタリーヘルス

～バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスを
どう実現するか～

登壇者：国内8名、ディレクター3名

参加者数：110名

Bioeconomy Hub Japan 2025

日時：2025年4月17日（木）-18日（金）

場所：ハービスホール（大阪梅田）

主催：Bioeconomy Hub Japan 組織委員会

テーマ：プラネタリーヘルス

～バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスを
どう実現するか～

登壇者：海外6名、国内9名、ディレクター3名

参加者数：339名（国内：290名、海外：25カ国 49名）

シンポジウムの議論から

**バイオエコノミーは、
経済成長と
持続可能な社会実現の
両方を可能にする**

登壇者のコメント

- オープンサイエンス
- 国際連携
- 新しい産業バリューチェーン
- 社会受容性の向上
- コミュニケーションと信頼
- サイエンスに基づくデータ共有
- 国際標準化、レギュレーション
- 地域文化を尊重したパートナーシップ
- グローバルとローカルのバランス
- 人材育成、情報発信
- 日本のイニシアチブに期待

